



# 5月園だよ

ホームページ <http://www.aen.arakawa.tokyo.jp/youchien/minamisenju2/>

## 幸せの記憶



園長 立石 晃子

園門の八重桜が見頃を迎え、春が深まってきました。汐入名物の南千住駅から長く続く色とりどりのツツジが咲き始め、汐入の街を彩っています。

幼稚園は入園・進級から3週間が経ちました。楽しいことを見つけたり、先生を頼ったり、友達と過ごしたりしながら、子供たちは新しい環境に慣れようとしている様子が見られます。幼稚園の仲間入りをした年少組の子供たちは、毎日が新しいことの連続で、園の遊具を試したり、友達の様子を見て真似たりしながら、少しずつ園生活の流れやどんな場所なのかが分かり過ごせるようになってきました。進級し大所帯になった年中組の子供たちは、友達関係が広がったり、今まで以上に深まったりしています。庭での虫探しも始まり、虫博士たちが「ダンゴムシ見つけたよ。」と手のひらに乗せて見せてきてくれています。幼稚園で一番のお兄さん・お姉さんとなった年長組の子供たちは、自分のマークやロッカーの場所を決めたり、グループや係りの仕事を決めたりするなど、「自分たちで生活を進めていく」基盤づくりをしていました。そして、幼稚園を修了し、小学一年生となった子供たちは、職員室の勝手口や園庭のフェンスから顔をのぞかせ、遠慮がちに声を掛けてきてはおしゃべりをし、授業のチャイムが鳴ると大急ぎで次の授業へと向かって走っています。それぞれのお子様も、新しい生活に期待を膨らませ意欲的に行動する一方で、緊張が緩み、疲れも見え始めている頃です。明日から始まる10連休でリフレッシュして、令和となった5月に会えるのを楽しみにしています。

先日、大豆生田 啓友 玉川大学教授が新聞に以下のような言葉を寄稿されていました。

「子ども時代の幸せだった記憶は、大人になった現在の私を元気付けてくれることがあります。そのことから、大人は『子どもがその時代の今を幸せに生きること』を大切にすることが重要なのです。(略)楽しかった家庭や地域での記憶が、子ども時代の原風景として残っているのです。その多くは、近所で自然に触れて、思い切り遊ぶことが幸せだった記憶です。そして、もう一つは母との関わりのものでした。それは、私が愛されていたことを実感させる記憶でした。」

私自身も子供の頃、近所の用水路でザリガニ釣りに明け暮れていたこと、その釣竿を父がテグスを使って手作りしてくれたこと、母は(サキイカではなく)ウイナーをつけてくれたことを思い出しました。ザリガニ釣りの楽しかった記憶とともにザリガニ釣りという遊びにも本気で付き合ってくれた父母との記憶があることを有難く思います。「幸せの記憶」を一人一人のお子様も、これからの人生を歩むことができたならどんなに幸せで、大人になったときの自分を元気づけてくれるものとなることでしょう。

長い10連休ですが、是非お子様と楽しい時間を過ごし、お子様の「幸せの記憶」を増やしていただけると嬉しいです。

## 楽しいこといっぱい！子どもたちの園生活

### < 3 歳もも組 >

せんせい、一緒に遊ぼう！ 作ったよ！ 楽しいこといっぱい！

幼稚園生活が始まって1ヶ月が経ち、初めは涙を見せる子や少し緊張している子もいましたが、少しずつ楽しいことを見つけ始めました。教師のもとに絵本を持ってきて「一緒に見よう！」と声を掛けてくれたり、クレヨンで絵を描いていると「ゾウさん描いたよ。」と見せてくれたり、砂場遊びでは「一緒に遊ぼう！」「ごはん作ったよ！」と誘ってきたり...教師に親しみを感じながら、幼稚園が安心して過ごせる場所になってきているようです。

みんなで一緒にする手遊びやリズム遊びも楽しくなってきたようで、「もう1回やりたい！」と毎日楽しみに集まってきます。新しい歌や踊りもすぐに覚えて笑顔いっぱい踊る姿や、覚えた歌を口ずさむ姿が増え、毎日嬉しいことの連続なようです。

5月はいよいよお弁当が始まります。ますます幼稚園の楽しみが増えるよう、天気の良い日には園庭でたくさん遊び、新しい歌やリズム遊びを楽しみながら過ごしていきます。

### < 4 歳たんぼぼ組 >

自分のマーク！自分たちのお部屋！友達と一緒にだと楽しいね

新しいマークを決めたことで、「ここは自分の場所！」と張り切って支度をしたり、友達のマークまで覚えて担任の手助けをしてくれたりするなど、しっかり者のたんぼぼ組さん。進級したことが嬉しくてたまらない一方、環境の変化に戸惑っていた気持ちも担任とのやりとりや気の合う友達と過ごす時間の中で少しずつほぐれてきたようです。戸外では、大きな砂場で思い切り水遊びをしたり草花をかき分けて虫探しを楽しんだりしています。虫探しでは、「何してるの？」と歩み寄ってきたもも組さんに、「ダンゴムシ...。」と、バケツの中をそっと覗かせてあげる姿はちょっぴり誇らしげで微笑ましいものです。

5月には離任式や親子遠足などがあります。様々な人とのふれあいを楽しみながら、皆で過ごす時間がよりいっそう楽しめるよう、子供たち一人一人の様子をよく見ながら関わっていきます。

### < 5 歳ばら組 >

ぼくたち、わたしたちに任せてね！張り切る年長組！

年長組になって3週間が経ちました。新しい生活にも慣れ始め、うさぎのお世話や花の水やりなどの係の仕事にグループの友達と声を掛け合って取り組む姿や、名札を自分で付けてみるなど、それぞれ自分なりに頑張っています。年少組の身支度や身体測定のお手伝いでは、「何て声を掛けようかな。」「どこまでやってあげようかな。」と、自分がお世話する子の様子を伺いながら自分なりに考えて関わり、優しく教えてあげることができました。「ぼくたち・わたしたちも年長さんに教えてもらったよね。」と懐かしく思い返し、改めて自分たちが一番大きいお兄さんお姉さんになったことや、人の役に立つ喜びを実感した子供たちでした。

年長組としての生活に張り切る姿を嬉しく思います。しかし、まだ年長組になったばかり。学級でほっと落ち着ける時間もつくりながら、好きな遊びや学級のみんなで遊ぶ時間の充実を図り、一人一人が力を発揮できるように援助していきます。